

摂津市議会

駅前等再開発特別委員会記録

平成13年3月14日

議会事務局

目 次

駅前等再開発特別委員会

3月14日

会議日時、場所、出席委員、説明のため出席した者、出席した議会事務局 職員、審査案件	1
開会の宣告	2
市長あいさつ	
委員会記録署名委員の指名	2
議案第1号所管分の審査	2
補足説明（都市整備部長、生活環境部理事）	
質疑（野口委員、木村委員、小林委員）	
採決	16
閉会の宣告	16

駅前等再開発特別委員会記録

1. 会議日時

平成13年3月14日(水) 午前10時 3分 開会
午前11時15分 閉会

1. 場所

第二委員会室

1. 出席委員

委員長 柴田繁勝	副委員長 北川照子	委員 森内一蔵
委員 木村勝彦	委員 小林貞夫	委員 野口博
委員 辻勝美	委員 渡辺慎吾	

1. 欠席委員

なし

1. 説明のため出席した者

市長 森川 薫	助役 小野吉孝	
市長公室長 多々良寛治	同室次長 奥村良夫	
生活環境部長 上田春二	生活環境部理事 前田宜伸	自治振興課長 南野邦博
環境対策課長 前川 弘		
都市整備部長 小西 進	都市整備部次長 北野正明	
まちづくり支援課長 小寺芳政		

1. 出席した議会事務局職員

事務局長 八木靖彦	同局次長代理 野杵雄三
-----------	-------------

1. 審査案件

議案第1号 平成13年度摂津市一般会計予算所管分

(午前10時3分 開会)

柴田委員長 ただいまから駅前等再開
発特別委員会を開会します。

理事者から、あいさつを受けます。森
川市長。

森川市長 おはようございます。

本日、委員の皆さん方には、過日の本
会議で付託されました案件について、何
かとお忙しい中、駅前等再開発特別委員
会の開催を賜り、まことにありがとうございます。
本案件につきまして、よろしくご審査を
いただき、可決賜りますようお願い申し
上げまして、簡単でございますが開会にあ
たりましてのごあいさつとさせていただきます。

なお、この場を一たん退席いたします
が、在庁いたしておりますので、ひとつ
よろしくお願い申し上げます。

柴田委員長 あいさつが終わりました。

本日の委員会記録署名委員は、小林委
員を指名します。

暫時、休憩いたします。

(午前10時4分 休憩)

(午前10時5分 再開)

柴田委員長 再開いたします。

議案第1号所管分の審査を行います。

補足説明を求めます。小西都市整備部
長。

小西都市整備部長 議案第1号、平成
13年度摂津市一般会計予算のうち、都
市整備部にかかわります分につきまして、
目を追って補足説明をさせていただきます。

まず、歳出でございますが、166ペー
ジ、款7、土木費、項4、都市計画費、
目2、街路事業費では、節8の報償費の
うち正雀駅前地区整備計画事業に係る経
費でございます。

同じく、節9、旅費のうち、阪急正雀
駅前地区整備事業及び吹田操車場跡地利

用計画調査事業に係る経費でございます。

続きまして、節11、需用費、食糧費
のうち、阪急正雀駅前地区整備事業に係
る経費、同じく印刷製本費のうち、阪急
京都線連続立体交差事業、吹田操車場跡
地利用計画調査事業及び阪急正雀駅前地
区整備事業に係る経費でございます。

次に、170ページ、目7、再開発事
業費では、節19、負担金、補助金及び
交付金の千里丘西地区市街地再開発準備
組合補助金でございます。

以上、予算の補足説明とさせていただきます。

柴田委員長 続いて、前田生活環境部
理事。

前田生活環境部理事 議案第1号、平
成13年度摂津市一般会計予算のうち、
生活環境部の環境対策課にかかわる部分
につきまして、目を追って主なものにつ
いて補足説明をさせていただきます。

歳出でございますが、134ページ、
款4、衛生費、項1、保健衛生費、目5、
環境政策費には、吹田貨物ターミナル駅
(仮称)建設工事に係る環境影響評価準
備書が日本鉄道建設公団から提出された
段階において、市としての意見を取りま
とめるに際し、環境影響評価専門委員会
を設置し、技術的見地から検討していただ
くための委員報酬と委員会開催時の賄
い費を計上させていただいております。

以上、簡単でございますが、歳入歳出
予算の補足説明とさせていただきます。

柴田委員長 説明が終わりましたので、
質疑を受けたいと思います。質疑のある
方は、挙手をお願いします。野口委員。

野口委員 最初に特別委員会の今回の
設置によって、所管ということで賛否も
問うという、そういう性格の中身が今回
の特別委員会設置によって、なったわけ
ですけども、そういう点では特別委員会

のこの重さといえますか、改めて今感じておりますけれども。今、簡単にご説明をいただいたわけですが、せっかくの特別委員会を設置されて、ここで関係する問題についての審議が始まっていきますので、改めてお尋ねしたいのは、1つは総合福祉会館の再整備基金利子、これ歳入で説明なかったんですけども、計上されてます。

これが、前回の委員会の中では数案の説明がされて、この間の経過では、一応、現状の建物は取り壊すということも含めて流れが示されてますけども、これについての1年間の取り組み状況といえますか、これをどうお考えなのか、この機会に一度お聞かせをいただきたい。

2つ目は、環境アセスメント事業費として、専門委員会設置に係る費用が今回提案をされています。吹田の条例に従って、次の準備書の作業が始まっております。このまとまった時点で、その結果を受けて本市としての対応といえますか、それを深めるための専門委員会の設置の費用だと思いますが、予算が可決された後、専門委員さんの選任だとか含めて、いろんな作業が始まっていくだろうと思えますが、今年度という時期、専門委員会が開催される時期といえますか、その辺はどう見ておられるのか。

それと、これまでも基本的な問題として吹操跡地の絡みで住民説明会等々の話をしてきておりますけれども、その辺の情報公開の問題で、ことしどう動いていくのか。これまでの論議を踏まえていただいて、その辺のお考えもお示しをいただければと。

3つ目は、小西部長から説明があった土木費の関係です。一応、予算の項目について簡単にご説明がりましたが、全体的に正雀のまちづくりの若手懇談会だ

とか、それとことしの国・府に対するいろんな動きも予定していると思いますし、また阪急連続立体交差でもお話を聞けば特別委員会を設置されたということで、毎年計上されているけども、今回ここに所管として入ってきたということだとか、まちづくり支援課としても吹操跡地の問題、正雀駅前問題に絡んだ予算が計上されていますので、こういう予算の使い方として、1年間どういう使われ方がして、大体1年間の獲得目標として、どういうところまで、この1年間進めていかれるのか、その辺を具体的な面も含めた総論、一度お聞かせをいただきたい。

4つ目は、千里丘西口の問題です。今回、補助金ということで50万円出てます。先日示された第2次行革の中で、これに絡む事項として都市再開発促進協議会負担金が、西地区再開発事業準備組合の組織移行や市補助金打切りによる脱会ということで、見直し内容で、そういう説明をされて、この見直しの中身が出されてます。今年度と来年度、2か年検討されて、平成15年度に実施、結論を出していくということも一応示されていますが、合わせて今、ガードの拡幅の問題で土地の買収を含めて、今年度の事業の関係で引き続き、作業が予定されてますけども、住民のそういう受け止め方も含めて、これの西口の今後のどう取り組んでいかれるのか、一度お示しをいただければと、以上4点お願いいたします。

柴田委員長 前川環境対策課長。

前川環境対策課長 それでは、準備書の実務についてご答弁させていただきます。

現在、公団において現地調査が実施されております。それが13年11月末で完了予定というふうに聞いております。

それから予測評価という形で、準備書

が早くて12月には上がってくるであろうというふうには聞いております。

それと、それに合わせて専門委員会の設置を、選任を検討していきたいというふうには考えております。

続きまして、2点目の住民説明会の考え方なんですけども、これ従前からお話させていただいているように、現段階ではアセスメントの実施計画書の段階でございます。準備書が出された段階で、より具体的な事業計画内容及びアセスメントの予測評価ということが出てきた段階におきまして、より具体的に住民に対しての説明会を開催しながら、その意見を専門委員会の方で反映させていきたいというふうに考えております。

柴田委員長 奥村市長公室次長。

奥村市長公室次長 それでは、福祉会館の建て替えの問題について、私の方から答弁させていただきます。

まず、今までの経緯を順を追って整理をして、お話をまずさせていただきます。

平成10年11月に福祉会館の耐震診断の報告書が出てまいりました。翌年、平成11年12月29日には福祉会館の応急対策調査報告書が出てまいりました。それから、あわせて総合福祉会館の周辺整備基本構想調査報告書が出てまいりました。

その応急対策の調査報告書には、耐震補強工事で2億3,000万円の金額が推計値として出てまいりましたが、これを耐震補強する場合に2階部分の保健所の有効階高の確保ができないというような問題が派生してきました。その状況を受けまして、大阪府の方とそれぞれ協議を進めてまいりました。昨年には、平成12年9月28日に大阪府庁の方で地域保健課と協議もさせていただきながら、最近では平成13年1月26日に、また

協議をさせていただきました。この協議の中で、本市といたしましては保健所の部分については存続をしていただきたいという方向でねばり強く話をしているんですが、府の方は今の財政状況の部分で非常に困難というような形の答弁もあります。ただ、最初の時にお話をさせていただいた部分は、新しく福祉会館を建て替えた時に、府の一定の負担ができないものだろうかというようなお話もさせていただきました。この1月の時点でのお話の部分では、府の財政状況も考えまして、財政負担ができなければ賃借という方法も考えてほしいということで提案させていただきました。それ以後、府との接触は、府の方も議会がありまして、非常に時間が取れないということで、そのままになっておるんですが、今後も引き続き府と存続を求めるように、あるいは府の方が具体的にどういうことができるのか、ざっくりばらんに条件を提示してほしいというところまでお話をしながら現在に至っております。

柴田委員長 小寺まちづくり支援課長。

小寺まちづくり支援課長 3点目の正雀まちづくりの件でございますけれども、まず正雀地区に関します予算は、まず報償金は14万円計上させていただいております。この報償金は、現在、正雀駅前地区で開催されております、まちづくり勉強会へ派遣いたします専門家への講師謝礼となっております。正雀地区におきましては若手商業者を中心とする若手懇談会が主体となっており、概ね月2回、まちづくりの勉強会を開催されております。

専門家の派遣と私ども職員との共同によりまして、地元主体のまちづくりに向けて活動を続けているところでございます。

今後の活動目標といたしましては、自

治会とか、今度新しくできます新設大学へ参画を呼びかけまして、活動内容をより一層PRに努めまして、専門家のアドバイスを受けながら人材育成に努めてまちづくりを推進してまいりたいというふうに考えております。

そのほか正雀に関します予算といたしましては、普通旅費でございます。これは、国・府等へのヒアリング、あるいは協議に要する経費でございます。

それから、食糧費が1万8,000円でございます。これは、駅前地区におきます、まちづくり懇談会が開催された場合を予定しております。

それから、印刷製本費がございます。これは、地元勉強会で必要な資料作成費でございます。

正雀につきましては、以上でございます。

次に、4点目の千里丘西地区の50万円の補助金についてでございます。これにつきましては、千里丘西地区の市街地再開発準備組合に対しまして補助金を交付しているものでございまして、準備組合におきます運営経費、調査研究費、講演会費、資料作成費等に充てられるものでございます。準備組合は、昭和63年に設立されておまして、事業の推進を図るために、私どもも都市計画決定に向けて準備作業に取り組んでまいりましたけれども、その後の社会情勢の変動が大きくてディベロッパーのめどが立たないこと、大規模な地権者の消極的な姿勢ということもございまして、全体の合意がなかなか図れないというのが現状でございます。

準備組合におかれましては、活動はやはり継続していくんだというふうなご意向がございますので、私どもといたしましては支援は継続してまいりたいという

ふうに考えておりますけれども、この補助金は平成元年度から交付を続けておまして、第2次行政改革の絡みで、やはり一定、千里丘ガードの進捗状況を見極めながら見直す必要があるのではないかとということで、14年度、15年度に見直しを図るということになっております。

柴田委員長 野口委員。

野口委員 福祉会館の絡みの話ですけども、保健所を含めた府との関係は、一応了解してるわけですけども、この1年間、どういうふうに動いていくのかということに改めて問うてるわけです。予算措置の関係で、大体予測はつくわけですけども、昨年度打ち上げた南千里丘地区を含めた周辺という、そういう範囲になりますけども、その辺が1年間どういう作業が庁内として行われていくのか。

市長の市政方針だとか、代表質問等々に対する答弁の中でも、関係機関との協議会をつくっていくと、財政状況もありますから一定のスタンスはあると思いますけども、そういうことも前提として、ことし1年間どういう格好で、この福祉会館を含めた南千里丘地区の絡みの話が行政側として、どういう作業を進めていくのか。関係機関との協議だけではなくて、例えば地元でもそれがそういう中身に入ってくるのか。一番心配している1つの問題としては、東口側の再開発ができた時点で、千里丘寝屋川線に人の出入りが少なくなりまして、そこに位置されているお店の方々がお店を閉めるということで、1つの地域で商店構成、商業施設の構成が変われば、それによって人の流れも変わってきますので、今の長引く不況のもとで影響は大だということで、そのためにはこの住民も含めた一定区域内の、この地域内の将来像をどうするかという立場で意見を聞く、そういう協議

会的なものをきちんとつくることも平行してやってほしいという思いもあるわけです。

実際、打ち出された阪急の新駅をつくった場合、その利用効果なども当然ありますけども、地域にとっては人間の動線ががらっと変わりますので、それによって実際、今苦労されている商売の方々がどういうお気持ちで、実際どう影響を受けるのかということも専門的な検討も当然必要だろうし、ただ単純に便利だから云々ということは、僕はいかないと思うんです。そういう意味で微妙な問題ですから、ある時期も含めてきちんと関係者、一定の区域を含めた住民の意見を聞く場を設けて、やっぱり進めるべきだということなんですけども、その辺も含めてことし1年間のこの問題に対する取り組み方といいますか、わかるようにご説明をいただければと。

2つ目は、アセスメントの関係です。大体わかったんですけども、12月後半に準備書ができ上がって、それを受けて専門委員会が事前の説明では5回ほど予定されていると。専門委員さんは、5人から10人予定しているということで動いていこうと思うんですけども、先ほどお話があった、準備書ができた段階で、より具体的に云々というお話がありました。そうすれば、今年度、来年3月までの間に住民説明会というものがあるのかないのか。その辺をちょっと、この際お示しいただきたいと思います。

それと、専門委員会のあり方といいますか、その辺をどうお考えなのか、確かに新環境条例によって専門委員会の設置が規定されましたけども、吹田と違う形になりますから、中身としては、しかし準備書ができた段階で、それをきちんと深めていくための専門委員会ですから、

摂津の場合、この間、市長が意見書をまとめて提出をしてますけども、そういう経過も踏まえて、専門委員会としての摂津市のスタンスといいますか、その辺を担当者としては、どういうところをお考えなのか、ちょっと雑ぱくな質問ですけども、わかるようにご説明いただければと。

特に、この間出されている吹田の委員会での審議を踏まえた取付け道路の問題について、基本協定の関係もありますけども、千里丘5丁目、7丁目から工事中の車両を入れるという予定でありますし、その辺が効率性も含めて考えれば、十三高槻線だとか大阪高槻京都線、または豊中岸部線、そういうところから入る可能性は皆無とは言えませんので、工事車両もそういう形で規定もされてますから、そういう点では本市としても関係のある中身が今回出てますし、そういう点も踏まえた専門委員会の検討すべき範疇といいますか、イメージを持ってる内容についてご説明いただきたいと。

阪急の連続立体交差の問題ですが、以前もお聞かせいただきましたが、もう一度、4.1キロの未施工部分のところの実際に工事に入った場合に、この費用負担といいますか国・府、それと阪急側、摂津市、大まかにもう1回、この際ちょっと教えていただきたいと。その上で、阪急の高架事業を優先的に採択を踏まえて取り組んでいくというのが、今の順番であります。以前にもお聞きしましたが、あそこの費用負担の問題、駅舎をつくると、駅舎そのものは阪急の駅舎になりますから、しかし現状では建設費は地元自治体が負担するというのが一般的なきまりであります。

さすれば、そういう駅舎の問題について、どういう条件であれば、阪急の駅に

なりますから、当然一般的に考えれば阪急も一定の負担を持つべきだと。もっと考えれば100%阪急が持つべきだというのも論としては成り立つと思うんです。それが、この間の論議では100%地元自治体負担ということで示されていますので、その辺の駅舎にかかわる費用負担の問題で、どういう要素があれば、どういう背景があれば費用負担の部分について、全額、地元自治体負担から分散的な負担ができることになるのか、ちょっと教えていただきたいと。

最初の質問にかかわりますけども、南千里丘地区を含めた周辺の整備ですけども、調査費が組まれてないと、そういう中で関係機関との対策協議会ということで示されていますけども、ここで地元などがどう絡まっていくのかと。実際、地元の商店さんの新年会のご案内では、阪急の新駅が決まりましたと、こういう中身を入れたのご案内を1月早々しているわけです。だから、地元としては、もう決まったということも前提とした受け止め方もありますし、正確な情報をきちんとお示しをするということも今の時点では行政の責任の1つだと思うんです。そういうことも含めて地元の関係で、ここの絡みについて、ことし1年間どうするのかあわせてお尋ねしておきます。

千里丘西口の問題につきましては、答弁そのものはわかりましたけども、以前から東口が終わって西口に取り組んできて、一番最大の地権者の同意の問題もあったりして、それとディベロッパーが撤退したということも合わさって、この間、ご承知のとおりな動きで来てるわけです。地元の意向も含めながら、今回、3年後にはこの補助金などもなくしていくということも想定した考えを一応示されておるわけです。

いろいろ僕らも再開発の問題については、一定の考えは持ってますけども、しかし、さまざまな問題をクリアしたとしても地元の住民の方々、地元の商店の方々と一緒に将来に向けての展望を確認し合って、大変だけれども頑張っていくということがなければ、なかなか進まないだろうということは当然だろうと思うんですけども、そういう意味で、これまで平成元年から補助金を出して進めてきたと、昭和63年には準備組合も結成されて、一定のこういう時期もありました。取り組んできたということ踏まえて、この短期間でその辺の結論を出すことについて、地元の受けとめ方もいろいろあるかと思うんですけども、きちんと斟酌していただいて、方向づけをしていただきたいと、そういう点で微妙な問題だと思しますので、きちんとお話し合いを進めていただきたいと。

同時に関連して、ちょっと千里丘ガードの拡幅問題に入りますけども、ちょっと所管が別ですけども、今、ガードはことしから東口側の専用道路の工事が始まっていくと、西口についてはガス管の埋設工事今始まっていますし、一部の仮設の歩道工事一応始まっていくと。一方、線路ぎわの仮設のための調査も始まるということ聞いておりますけども、今残ってる方々が代替地を近辺で何としても確保してほしいというのが一番のポイントだと思うんですけど。そういう状況を踏まえた、なかなか代替地が見つからないということで、そういうところからも駅前再開発の問題について、地元も思いがあると思うんです。そういうことを踏まえて地元の今のそういう方々を踏まえた意向といいますが、もうちょっと詳しくお示ししていただいて、今後の取り組みについて、そういう微妙な中にも含めて

ますから一度お考えを聞かせていただきたいということです。

柴田委員長 ただ今の質疑のうち、千里丘ガードは所管外ですのでその部分を除いて答弁をお願いします。

奥村市長公室次長。

奥村市長公室次長 総合福祉会館の1年間の取り組みということで、再度お問い合わせがありました。先ほど言いましたように、大阪府の方と保健所の取扱の部分について、再度協議をしてみたいです。その協議が整いましたら基本設計、あるいは実施設計というふうに段階が進んでいくわけなんですけど、早急に協議が整いましたら補正予算においてでも基本設計をやりたいというふうには考えてます。といいますのは、総合福祉会館の分は南千里丘の問題も当然去ることながら、耐震という大きな問題、火急の問題があります。それをクリアするためには、早々に建て替えをしなければならぬということとは十分認識しております。

それで、場所といたしましては、ふれあい広場という土地がありますので、そのところで一定、全体的な整合性も図りながら進めていきたいとは思っております。

府の方の状況でございますが、平成12年の4月には地域保健法の改正によって、保健所の数が22保健所から15保健所に縮減されました。13年の秋には、また大阪府の方で新行財政計画の策定も予定されております。

先ほど言いましたように、当初は建設費の一応の負担ということでお話をさせていただきました。ちょっとトーンが弱くなりまして、賃借料という話もさせていただきました。今後、その存続につきましては、ぜひ市の方といたしましては保健所が必要ですので、条件を一定緩め

た交渉も必要かなというふうに考えております。

柴田委員長 前川環境対策課長。

前川環境対策課長 専門委員会のあり方についてのご質問でございますが、実施計画の中身におきましては、公団の方から9項目ほどの要素、大気汚染とか、騒音振動なり、景観、文化財、あと廃棄物等々の要素が考えられております。その中の現況調査が今現在実施されておる中で、それを用いて予測評価という手法が取られていきまして、準備書という形のものが上がってきます。その中には、当然、現況の交通量とか留置線の運用形態とかが予測されてきます。実質的に具体的な工事車両が何台通るから、どれぐらいの予測になるというような準備書の内容になるのかなというふうに考えておりますので、それぞれの大気汚染とか騒音振動なり文化財、廃棄物関係の学者、専門家で委員会を設置しながら、技術的な見地からご意見をいただくと。それをもって市長の意見という形で持っていきたいなというふうには考えております。

それと2点目の住民説明会のあり方なんですけども、今、さきにご説明させていただきましたように、準備書が出た段階におきまして、アセスの制度的な問題から、より具体的な内容が提示された段階におきまして住民にご説明させていただく方が、よりベターかなというふうに、以前、フロー図等を示させていただいた中でご説明したように、その段階において十分説明させていただきながら、住民のご意見という形で反映させていく方が、よりベターかなというふうには考えております。その間につきましては、環境影響評価の事務上の観点からいきますと、その間の住民に対する説明というのは考えておりません。

柴田委員長 北野都市整備部次長。

北野都市整備部次長 連続立体交差事業におきます、その4.2キロの費用負担の内容でございますが、費用負担につきましては、一定、前委員会におきましてもご答弁申し上げておりますように、全体事業費におきましての7%が阪急負担となっております。そして、全体事業費の7%を差し引かせていただいた93%の2分の1につきましては国負担、そしてその府負担におきましては93%の3分の1、市におきましては93%の6分の1負担と、このように定められておるところでございます。

今回、以前にも申し上げておりました、やはり今現在の社会情勢の変化によりまして、国並びに大阪府におきまして環境側道の国費対象がなかなかいただけないという状況もございます。これから、こういった補助率につきましても若干変動があるかと思しますので、全体事業費でここで振り分けてなんぼという話は、なかなかしづらいところがございます。今後、平成13年度におきまして精査をいたした中で、またご提示してまいりたいというふうに考えております。

そして、2点目の駅舎をつくるに当たりましての地元負担の問題でございますが、本市におきましても当然この新駅につきましては以前からの請願駅でもございます。なおかつ住民にとっては、広域性、あるいはその地域の利便性を考えることから、当然、駅は必要だというふうなお話もございます。このような観点から総合いたしますと、非常に新駅というものは非常に大事なものでございます。とにかく、その費用負担面につきましては、阪急とも協議をさしていただいておりますが、なかなか電鉄側といたしましても費用負担については目を向けていた

だけない。さらに国の方につきましては、いろいろな事業メニューを探る中で今後とも研究をしてみたいというふうに考えております。

続きまして、3点目の南千里丘の調査費におきます取り組みの中で地元がどうかかわっていくのかというご質問でございますが、今回、予算のない中で本市、我々の所管課といたしましては、平成13年度におきましては、まちづくり整備計画策定委員会を設けていきたいというふうに考えております。その中で以前、都市基盤整備公団から提出いただいております、そのまちづくりの内容につきまして再度その内容の深度化を図りながら、さらに本市の意向も伝えながら1つの構想案をお示しさせていただきたいというふうに考えておるところでございます。特に平成13年度におきましては、地元のかかわりという内容は、まだ方向性が見えない中で地元の参画、あるいは説明というのは、まだ平成13年度では考えていないということでございますので、よろしく申し上げます。

柴田委員長 小寺まちづくり支援課長。

小寺まちづくり支援課長 千里丘西口再開発の問題でございますけれども、地元のご意向につきましては、過去にアンケート調査なんかを通して存続のご意向を確認しておったわけでございますけれども、平成11年4月の中では大口の地権者の方が脱退をされまして、それ以後、また再びご意向を確認いたしましたところ、まだ頑張ってやっていくんだという熱意が示されておりますので、私もといたしましては支援を継続という方向で進めてまいっております。

ですけれども、やはりご指摘のように諸般の難しい事情もございまして、行政改革の絡みで一定、平成元年ですから十

数年間補助を続けておるという状況から考えまして、一定見直しの方向に来ておるんじゃないかということが現状でございます。

なお、意向につきましては、昨年の役員会で確認いたしましたところ、やはりやっていくというご意思でございました。仮に補助金を見直すということになりましたら支援という形、姿勢は継続していく必要があるかというふうに考えております。

柴田委員長 ほかに。木村委員。

木村委員 今の西地区の準備組合、昭和63年から平成7年までは、準備組合の事業活動経過という報告書を、一覧表をもらってます。しかし、平成7年以降の活動というのは、私たちには見えてこない部分がありますので、そういう活動経過報告等が出ておるようでしたら一遍お出しいただきたいと思えます。

もう1つ、正雀の駅前再開発につきましても、まちづくり懇談会の提言を受けて、その提言に基づいて勉強会をやってもらって、今報告のありましたように若手中心でやってもらってるんですけども、懇談会ではやはり自治会とか各種団体が入って一定の提言を出してもらって、若手の勉強会をしたあとに各種団体の方も入ってもらって取り組んでいくということですけども、そういうことでいいのかなということ若干疑問を感じるんですけども、確かに若手の方は熱心に勉強をされておるとことは聞いておりますけれども。今、正雀の商店街の現状というのは壊滅的な、ライフの進出で影響を受けて、グリーンプラザは全く2階は店が出ていない。1階部分についても歯抜けになってきておるということで、中心的なグリーンプラザのそういう状況の中では、駅前再開発そのものの一番中心

的なものが機能を果たしてこないということになってきますんで、その辺も勉強会、懇談会の一定の経過を私も聞かせてもらいました。しかし、勉強会の中でどのような方向性で進んでいるのか、どういう議論がされておるのかということについては全く私たちわかりませんので、その辺のことについて一遍ご報告をいただきたいと思うんですけども。

柴田委員長 小寺まちづくり支援課長。

小寺まちづくり支援課長 まず、正雀駅前の現在の取り組みの状況でございますけれども、今おっしゃってるとおり若手商業者、あるいは後継者を中心といたしまして勉強会を当面月2回開催しております。私ども職員もオブザーバーとして参加して支援しております。これは、もっぱら地区における人材育成という観点からも重要ではないかというふうに考えておりました。これを拠点といたしまして影響を及ぼして、やがて大きな核となって育っていくことを期待しておるわけでございます。

現状は今、ご指摘がありましたけれども、一気になかなか解決するというのは、なかなか難しいというふうに考えております。今の状態を継続して大きく人材を育てて将来を期待しようというのが現在の姿勢でございます。

柴田委員長 北野都市整備部次長。

北野都市整備部次長 西地区準備組合の活動結果報告の件でございますが、総会の折に一定の資料が最終的には仕上がっておりますので、できている範囲におきまして一定の活動内容のご報告つづりというのを提示させていただきたいというふうに考えておりますが、またこれ後日調整をさせていただいた上で資料提示させていただきたいというふうに考えております。

柴田委員長 木村委員。

木村委員 正雀の勉強会の取り組み状況の経過報告等は、資料をもらえるんですかね。今、小寺課長がおっしゃったような現状では、私はとてもやないけど、ないと思うんですよ。例えば本町商店街にしましても商店街の幹部をされておった商店ももう閉店をされましたし、そういう点では今、人材を育成していくという状況には、私はもうないと思うんですよ。だから、そういう点では私の認識と担当の認識との間に食い違いがありますので、そういう点では私に対する反論等があれば担当の方とも言っていて、そうやないんやと、人材をきちんと育てていくんだということになるんか、その辺の認識について聞かせてもらいたいと思います。

それと、もう1つは正雀の再開発、千里丘西も、それから吹操跡地、南千里丘問題も含めて、これは助役の見解を聞かせてもらいたいんですけれども、これは今の摂津市の財政状況を考えた時に、この4つの事業がどういう形で進んでいくのかということは、不確定な部分もあるんですけれども、やっぱり大きな住市総、都市総の網かけをする中で協議の整ってやつから取り組んでいくこととなっていると思うんですけれども、これ一気に集中していきますと大変財政的な負担も大きいですし、その辺のことについての一定の市の見通し、考え等について、これはひとつ助役の方からお聞かせ願いたいと思います。

柴田委員長 小野助役。

小野助役 今、木村委員の方から言われましたように、例えば今回の南千里丘問題につきましても一定の予算化を見送らざるを得なかったという状況でもございます。

それで、大阪府の方とも協議しておりますのは、今回、大阪府から派遣職員をお願いしておるわけございまして、私どものその中身としては、まず南千里丘問題であれば、その公団等から提示された試算額がどういう形で市としての主体的な中身でつくっていただけるのかということが1つございました。

また、吹操跡地との整合性なり、正雀駅前と南千里丘との整合性というものも大きくかかわってくるというふうにも考えております。そういったことで、府の派遣職員の中で、そういった今後におきます1つは都市基盤公団の資料の見直しの市としての主体的な確立と、今後におきます府、国土交通省との連携といったことについても考えております。

なお、府の方におきましてもこの2月段階でまいりました時に、大阪府の担当の幹部が具体的に言っておりました中で、非常に私どもにとって心強いと言いますか2つございまして、それは例えば南千里丘においては非常にコンパクトなまちづくりという形で府下のモデルになり得るということを大阪府は申しておりました。そういった意味で非常に財源が厳しいことは、どこも一緒だと、その中でどうやって知恵を出していくかということ府も全面的に協力したいと。

もう1つは、国におきましてもいろんな補助システムを今つくり出しておるんで、そういうノウハウもお伝えをしたいということも聞いておりました。そういった中で私ども南千里丘まちづくりでさえも、ここでやりました正雀の問題と非常に大きな兼ね合いということでの、諸手を挙げて賛成ということになり得るかどうかということも若干危惧をいたしております。

それで、私どもも住市総や都市総の大

きな、大阪府の方にも言ってますが網かけの中で、一定、国の制度を知恵を絞りながら大阪府のノウハウもいただきながら私どもの市の実際的なまちづくりを考えた上で、一定の進められるところといえますか、そういうところの手をつけられるところからやっていくという考え方を現実に持っております。

千里丘西におきましても正雀におきましても、吹操におきましても、南千里丘におきましてもいろんな課題がございますが、今言われました大きな網かけということは大阪府も理解しております。そういった意味で、国のいろんな現在、補助システムが出ておるから、その辺のことも大阪府のノウハウもいただきながら一定の方向性を見いだしたいと思ってますし、そういうことの中から、まずできるところということの中で一定の中身も考えてまいりたいというようにも考えているところでございます。

柴田委員長 小寺まちづくり支援課長。

小寺まちづくり支援課長 正雀駅前地区におきます取り組みでございますけれども、例えば12年度の若手懇談会の活動状況を見ますと4月には空き缶回収事業に取り組みまして、新たに機械を2台設置して空き缶の回収をアピールして、マスコミにも取り上げられたという実績がございます。摂津まつりにも積極的に参加する。たそがれコンサートにも実行委員会に参画して、積極的に活動を行う。その他、よその団体との交流、それから専門家の講演会、意見交換、オープンセミナー、それから商店街についての現状の情報交換等、危機管理につきましては若手の商人の方、あるいは後継者の方は、ひしひしと身を持って感じられているというふうに考えております。

私どもとしても、精一杯それを支えて

いきたいと、この火を消したくないという思いで支援を続けてまいりたいというふうに考えております。

柴田委員長 小西都市整備部長。

小西都市整備部長 今、若手懇談会等の取り組みについては、小寺課長がご答弁させていただいたわけでございます。木村委員のおっしゃってる今までの活動報告についてという内容でございますけれども、これらについては一定、後日整理をさせていただいて提出したいと思っておりますので、よろしくご了承を賜りたいと思っております。

柴田委員長 ほかにございませんか。
はい、小林委員。

小林委員 今回の予算の中身について聞くといいまして非常に少ない予算ですので、むしろ13年度予算の審議の中で今後の問題について、私感じるところがありますので、ご質問したいと思います。

先ほどから福社会館の建て替えということをいろいろ答弁いただいております。保健所の協議の内容も今ずっと出ておるわけでありまして、私どもの代表質問におきましても会館の建て替えについてお聞きをいたしました。

私、ここでちょっと私の考えも披露しながら申し上げたいんですが、いろいろ耐震工事のこととか、過去において現状の会館の耐震工事をやっていくよりも、新しくふれあい広場のところで建て替えていきたいというのが市の方針だということは十分承知しておるんですが、私ちょっとご提案申し上げたいんですが、質問の内容でもあるわけなんです、今、同僚議員から質問が出ておりますように、南千里丘駅構想ということは非常に重要な問題でありまして、早速にも調査費をつけて府と協議をして取り組んでいかな

いかんと、その中では特に急ぐのは阪急の高架化の問題であります。これはもう非常に重要なことでありまして、推進していかなければならない、一刻も揺るがしにはできない。

また、我々が特別委員会の研修の中で見ました埼玉県の大宮市に行った時に、都市整備公団のあの大きい東京副都心構想というのを見てきまして、やっぱり都市整備公団がかかってくる時には全面的に摂津市もそれに協力をして、摂津市の整備といいますか、再開発を推進していけないかと。

ところで、いろいろ前置きをしましたけれども、会館の建て替えというのは、ふれあい広場にやはり建て替えていくということであります。そうしますと、若干やっぱり、一番最初にちょっと聞いた南千里丘駅構想とは別にして、摂津市がせっかく持っております広場をそういうことで今度の南千里丘駅の問題の中から若干外していくということにもつながるわけであります。

もう1つ言えば、非常に財政難の中におきまして、福社会館の建て替えも、やはりいくら安く見積もっても二、三十億はかかるんじゃないかということになりますと、なかなかこれは手をつけられない。そういうことで、どちらもすくんでしまうという問題であります。

私は、やはり会館を現在のふれあい広場に移すということは、今後の経常経費といいますか、管理の問題におきまして非常に整合性の乏しいような計画になると思うんであります。

現在、文化ホールと女性センターウィズというものは、会館と三者一体になりまして運営をされております。これが福社会館が真ん中でつぶされまして、駐車場にでもなって、会館をまた別なところ

に建てていくということになれば、この広いところに3つが点在をいたしまして、その管理もかなり厳しいものがあると。といいまして、文化ホールをつぶして、また新しい会館の横に建てていくとか、女性センターを移転するとかいうことも、なかなかこれは困難であります。さすれば、やはり現在の時点で会館の耐震工事もということではありますが、現在の会館に手を加えて、そして10年なり、15年なりやっていくというようなことで、やはりやっていく方が現実的ではないかと。そして、ふれあい広場はむしろ南千里丘駅構想の中に取り入れて、そして財源的にも相当あれを売るとしましても価値の高いものでありますから、それをもって都市整備公団と協議をしていってはどうかと。

そして、正雀に至る阪急高架化の問題も早急に手をつけていただいて、あの千里丘三島線の交通渋滞を解決していくということは、非常にベターではないかと思うんです。

どういうことで、会館を建て替えて、どんな管理構想を持っておられるのか聞きたいんでありますが、この遠いところを施設管理公社の人が走り回って、そして管理していくよりは、やはり保安にしましても駐車場の問題にしましても、やはりこれは現在の形が非常にうまくいってるんじゃないかと思しますので、将来的にもお金があるとすれば、今の会館をつぶして、そこに建てていく方がベターじゃないかと思えます。そういうことが今後の摂津市においては、非常に有意義なことではないかと思うんでありますが、ちょっとお考えを聞かせてほしいと思います。

柴田委員長 奥村市長公室次長。

奥村市長公室次長 先ほど野口委員に

ご答弁させていただいたんですが、応急対策費として2億3,000万円、これは外壁の剥離、あるいは防止のための工事であります。会館そのものの耐震強化を全面的に改修したならば11億5,700万円という試算になっております。

それぞれ政策推進課の方でも、いろんな案を考えております。1つは、福祉会館のリニューアルをする場合に11億5,700万円、これは耐震工事、全面的な改修をした場合。それから現在地での建て替え、これが12億4,800万円。それからふれあい広場での新築が11億9,700万円というふうになっております。これら経費を比較してわかるように、リニューアルしても、あるいはふれあい広場でも、あるいは現在の建て替えの部分につきましても同様な十数億という経費がかかります。

小林委員のおっしゃっておられる女性センターですね、それから文化ホール、一体化した施設であることは十分認識しておるんですが、例えば現在地で建て替えをした場合、その2年、あるいは3年間の間の代替施設としてどうするのかと。代替施設で仮設の建物を建てましても、その経費はむだになってしまうのではないかというような問題もあります。いずれにいたしましても、その大きなキーポイントというのは、やはり保健所の存続問題が横たわっておりまして、その存続問題が、その保健所の協議が整いましたら具体的に基本設計の中で、どういう形が一番、市にとっていいのかということは、当然そういうことも踏まえまして協議はさせていただきます。

ただ、今現在では、ふれあい広場での建て替えが一番コスト的には、総コストとしては一番ベターではないかというふうに考えております。

柴田委員長 小林委員。

小林委員 よくわかるんですが、一見そういう現在のところを使いながら、ふれあい広場に持っていくということについては、整合性があるように思うんですが、私申し上げておりますのは、そのふれあい広場に新しい建物を建てて、そしてそれから文化ホールと女性センターをどう結んでいくんかという問題の中では、やはり摂津市はそれ以外にも体育館がありますので、この体育館とか、あらゆるものが現在の会館を中心にして設計されております。それを会館部分だけ取り壊して、そこに駐車場もつくって、別にふれあい広場の中に建物を持っていくということは、非常にこれは整合性に乏しいんじゃないかと思えます。

また、私ちょっと触れさせてもらったんですが、南千里丘駅構想の中に、本市のふれあい広場というものは最初に入っておったと思うんですが、それが今回除かれていくと。そうしますと、本市の負担金もまた別にいろいろと使っていくかんと、これは非常に本市の財政規模から見ると難しい問題になると。私は、会館を2年や3年の間に建て替えるんなら今の答弁でいいと思うんですが、その会館が財政難のために、なかなか将来的に先に遠のくということであれば、むしろ使用する市民のためにも、あるいは摂津市の財政的な見地のためにも、現在、2億3,000万円と言われておりますが、そんなに使わなくても必要最低限のリニューアルをして、そして全体の構想のために役立てたらどうかという意見を持っております。

今の答弁では、建て替えだけのためにやるなら、今のところがいいとおっしゃっておりますが、そんなに現在のところに建て替えるのに2年も3年も別な場所を

つくらないかんということはないと思うんです。これを上手にやれば、ふれあい広場の方に例えばプレハブの仮設のものをつくっておいて、そして1年間ぐらいでやってしまうということも可能だと思いますので、一度総合的なものを行政内部において検討していただいて、やったらどうかと。

耐震工事をやってまで現在の建物を使えということを私は申してるんじゃないんです。現在のものでいけば、保健所も別にそのまま使ってもらったらいいし、その中で一部エレベーターとか、階段とか、その他照明とか、さまざまなところにちょっとリニューアルする必要がありますので、財政的に許す最低限の費用でリニューアルをして、そしてやっていくのはどうかと。

なお、ちょっとそれに関連して、例えば文化ホールにしましても体育館にしましても、かなり今、整備しないと将来的にはまた建て替えないかんようになると思いますので、その点、摂津市の現在の建物に対する点検は十分なのかどうか、これはこちらに上田部長も出席されておりますので、その点の要望も上がっていると思いますので、一度お答えをいただきたい。

会館のタイルもかなりでこぼこができておまして、これは会館つぶすんだから、いいんだということで放置されておりますが、この辺もなるべく整備をして、そしてやるという方向に変えてはどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

柴田委員長 奥村市長公室次長。

奥村市長公室次長 福祉会館の建て替えの問題なんですが、先ほど言いましたようにふれあい広場での新築を重きに考えております。1つは、今現在の建物が耐震診断報告書にありますように非常に

危険な状態にあります。それが応急対策の分でも2億3,000万円、外壁の剥離の危険性防止のために2億3,000万円、全体的な耐震工事をするとすれば11億5,700万円という多額な経費が必要になってきます。

ふれあい広場での新築をした場合、例えばおっしゃられるように女性センター、あるいは文化ホール、一体性がなくなるという危惧というのは重々わかります。ただ、そのところでどういうふうな管理をするのかということが1つ懸案事項として出てくるんですけれども、ただ、そういうことになった場合に現在の福祉会館の跡地で駐車場というのは、今のところは考えておりません。そのところに、例えば小さな管理事務所を設けるのか、そういう部分については、まだ検討はしてありませんが、危惧されておるようなことも踏まえて、ふれあい広場での改築はやっていきたいというふうには思っております。

柴田委員長 小林委員。

小林委員 十分、私の考えていることを申し上げましたので、できるだけ理事者内部において、こういうこともあるということで検討をしていただきたい。そして、現実合った施策をつくってもらわないと、私、いつも福祉会館を使用させてもらっておりますので、現状ではだんだんと、これからずっと使っていくについては支障が起きてきているように思います。それにかかわらず、よく管理公社の方がやっておられますので、気持ち良く使用されておる。

そして、最近ではカルチャー的なもの以外にも摂津市内の企業とか団体とかが非常にたくさんお使いになりまして、常にフル回転の状態であります。したがって、私どもの福祉会館というものは、できた

当初は建築雑誌にも載るような非常にユニークなものでありまして、なかなかつづすにもしのびないというものであります。そこから会館だけを取って歯抜けにしてしまって、ほかの3施設、体育館と女性センターと文化ホールを残して、そしていろいろやるということについては、これはまた移動の問題とか使用の問題において、かなり市民に不便を感じさせるんじゃないかと思っておりますので、やはり昔、先輩たちが構想をされて、現在の形に持ってこられた、市民に使い慣れたことを生かしていくということもあってもいいんじゃないかと思っております。

私は、そういうことでお金が十分あるんなら、いろんなことを構想されて、今後また文化ホールにかわる集会施設もつくったらいいし、あるいは体育館も、ふれあい広場が広いからつくったらいいんですが、なかなかそれは、よほどびっくりするような財政状況の好転ということがない限り、それは不可能だと思っております。

そうしますと、5年、10年先のことであれば、むしろ今日的に手を入れてリニューアルしていく方がベターではないかと思っておりますので、これを政策推進課に、いつやるのかということを知るのはこれは非常に酷だと思っておりますので、いろんなことの検討の中に私らの考えておりますことも入れていただいて、そして今後、一度またこういう特別委員会に説明していただければいいと思います。今回、予算が乗っておるわけじゃありませんので、そんなにいろいろと詳しく聞くのは無理でありますけれども、南千里丘構想というものは、抜本的な摂津市のまちづくりでありますので、できるだけそれを中心に今後、市政を展開してほしい。そのためには、せっかく持っておりますふ

れあい広場というものも生かしてもらって、そして都市整備公団の構想を摂津に引き寄せるといことがベターじゃないかと思っておりますので、一度参考にさせていただきたい、そういうことを要望いたしまして終わります。

柴田委員長 ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

柴田委員長 以上で質疑を終わります。暫時休憩いたします。

(午前11時12分 休憩)

(午前11時14分 再開)

柴田委員長 再開いたします。

討論に入ります。討論はありますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

柴田委員長 討論なしと認め、採決をいたします。

議案第1号所管分について、可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(挙手する者あり)

山本委員長 全員賛成。

よって、本件は可決すべきものと決定しました。

これで、本委員会を閉会いたします。

(午前11時15分 閉会)

委員会条例第29号第1項の規定により、署名する。

駅前等再開発特別委員長 柴田 繁勝

駅前等再開発特別委員 小林 貞夫